

カトリック六甲教会 教会報



多国籍化する教会

助任司祭 渡辺徹郎, S. J.



今、日本のカトリック教会はますます多国籍化しています。外国人移住者の増加に伴い、教会にも外国籍の方々が多く訪ねるようになっていきます。日本人よりも外国籍の方々のミサ参加者が多い教会も日本各地で増えつつあります。

六甲教会においても、外国籍の方々は着実に増えています。それはとりわけ、土曜日の 18:00 ミサや青年会に見て取れます。夜ミサ参加者は年齢層が比較的低い方々が多い傾向があるため、それに伴い若い外国籍の方々も増えています。また、青年会も食事会をすると 20 名程集まるのですが、集まるメンバーの半分以上が中国・ベトナム・インドネシアといった外国籍の方々です。

それでは、増え続ける外国人移住者を教会はどのように受け入れればよいのでしょうか？日本カトリック司教協議会から出版されている『国籍を超えた神の国を目指して 改訂版』（2016 年）には以下のように書かれています。

教会にとって、だれもがキリストにおける兄弟姉妹なのです。日本の教会は、けっして日本人だけの教会ではありません。その意味で難民移住移動者を歓迎するにとどまらず、さまざまな違いを超えて、ひとつの共同体をつくり上げていく努力によってこそ、普遍的な教会を社会にあかしすることができるのです。

ひとつの共同体をつくり上げる努力のうちには、互いの違いから生じる摩擦や痛みを体験することが含まれます。他者に対して自分のあり方を一方的に押し付けるのは福音的ではありません。そうではなく、自分自身も変わっていくことへと開かれた交わりを通して、わたしたちはキリストにおいて一つになるのです。

最近、六甲教会で新しく始まった活動の一つとして「にほんごカフェ」があります。普段外国人移住者と関わっている信徒や、青年会の外国籍メンバーの発案によるもので、外国人移住者に日本語を話す・練習する機会を提供する内容となっています。教会と外という垣根を超えた活動を目指し、試行錯誤をしながら続けています。

教会が外国籍の方々を兄弟姉妹として受け入れ、ともに神の国をあかしできることを願っています。

2025年度 第2回 小教区評議会 議事録(要約)

日時：2025年7月13日(日)11時30分～13時10分

場所：信徒会館 第1・2会議室

出席者：加藤信也主任司祭、渡辺徹郎助任司祭、堤 福生（議長）、中村治也（副議長）、三木宏夫（書記）、小田琢也（壮年会）、藤井敦子（婦人会）、辻原 華（教会学校）、井川直哉（地区会）、中西裕樹（典礼部）、松平麻也（宣教・養成部）、井川伸子（社会活動部）、大上尚子（広報部）、本下稔（施設管理部）、松井理直（防災委員会）、宗行孝之介（周年事業プロジェクトチーム）、西川 葉（事務所）

1. 主任司祭の挨拶

佐久間イエズス会日本管区長が7月6日に六甲教会を訪問、当日開催の地区交流会の最後まで参加して下さった。（加藤主任司祭は）イエズス会所管の4教会全ての司牧の経験から、六甲教会は信徒のまとまりがあり、最も力のある教会だと管区長に報告した。

2. 報告事項

- 1) 巡礼（細川ガラシャの足跡を訪ねて）(5/9)
1泊2日で味土野（京丹後市）へ行き、巡礼は一通り区切りがついた。参加者が少なかったため、経費不足分は巡礼予算で補填する予定。教会報6月号参照。
- 2) 三日月会例会（5/14）：教会報6月号で報告済。
- 3) 防災セミナー（5/25）：評議会役員の小田琢也さんが灘区の防災施設について説明。約30名が参加。教会報6月号参照。
- 4) ミニコンサート(5/31)：高山教子さん・松井公子さんが出演、約50名が参加。教会報7月号参照。
- 5) 教会学校遠足(6/1)：リーダー数が不足して中止。しかし子供たちが楽しみにしており、10月頃に実施予定。
- 6) 春の黙想会（6/7）：英隆一朗神父の指導による5回目を開催。65名が参加。次回6回目（最終回）は秋に実施。
- 7) 年次報告会（6/8）：教会報7月号で報告済。
- 8) 堅信式(6/15)：酒井俊弘補佐司教と加藤主任司祭、渡辺助任司祭の共同司式で6名が受堅。教会報7月号参照。
- 9) 新受洗者・転入者説明会(6/22)：受洗者4名、転入者4名を含め、評議会役員、地区会役員など30名が参加。教会報7月号参照。
- 10) 祈りと音楽の集い(6/22)：約130名が来場した。教会報7月号参照。
- 11) 地区交流会(7/6)：アンケート結果をもとに地区会の今後について話し合った。11時半に開始。長い集いとなった地区では14時近くまで話し合いが続いた。
- 12) その他各部会・各部からの報告

【加藤主任司祭から】

教会の名称について、「六甲」と「カトリック」のどちらが先か、統一すべきと考える。イエズス会での扱い、カトリック中央協議会での規定によると「カトリック六甲教会」が正式とわかった。これまで種々議論があったと思うが、今後はこの表記に統一する。新しい契約時など、できるところから変更していく。

【事務所から】

車両による教会の出入りについて、右折禁止を求める、かなり強めの要請があった。

審議の結果、今後「右折入庫をご遠慮下さい」等の告知を、週報・教会報・HP・掲示板に記載し、注意喚起する。

3. 協議事項

1) チャリティーバザーについて

①方式：昨年と同様に個人出店とワークショップ。

予定：8月中に概要を確定し、9月教会報で募集を開始し9月末に募集を終了。

その他：出店者の部屋割に留意が必要。出店者には、机の必要数等の事前申告、終了後の原状回復に努めて欲しい。

②バザー企画グループの選任：井川直哉、荏原いずみ、藤井敦子、小田琢也。

2) 2025年度活動計画策定後に対応すべき課題について

①「献堂30周年記念ミサ」について

11月30日（日）10時ミサにて実施。当初、ミサ司式をお願いする予定だった松村信也神父は健康状態が不安とのことで、お呼びするのは断念した。

11時半からお茶会を実施したい。展示物など、秋までに計画を策定する予定。

②教会建物・設備の老朽化により今後に増える修繕費について検討するメンバーを選出

目的：老朽化による修繕費増加対策の立案。

検討メンバー：中村治也（評議会役員）、堤 福生（財務部）、本下 稔（施設管理部）

期限：2026年1月

③六甲教会のセキュリティについて

現状：教会内の出入（時間、場所等）管理は、年度ごとに異なる対応していたことから、今後はハード面、ソフト面（ルール作りを含む）の双方から対応策を立案。

検討メンバー：評議会役員1名、施設管理部2名、事務室1名

期限：ハード面での対策については、来年度（2026年度）予算に計上。

【意見交換】：

- ・防犯カメラ設置については施設管理部でも議論したが、反対がなかった
- ・メリットは、記録として残る、警備会社にもすぐ連絡可、無断侵入への抑止効果がある等。
- ・施行マニュアルも作れば、信徒の皆さんも納得してくれるはず。
- ・事務所員を守る決め手にはならないが、防犯カメラが迷惑行為者等へ一定の抑止効果があるのではないか。

3) 2025年度補正予算について

目的：周年事業プロジェクトの本格的活動開始と2025年度予算策定後の主任司祭交代に伴う費用増加対応のため。

【補正予算】

部会名	分類（件名）	2025年度 予算	補正額	補正後予算	備考
宣教養成部	黙想会	10,000	+120,000	130,000	英神父による 春秋黙想会
評議会	予備費	107,000	+100,000	207,000	周年事業プロジェクト 予算

- ・審議の結果、補正予算については異議なく承認された。

4. 今後の行事予定

1) 侍者練成会 7/13、20(日)13時～

新規に7名が、7/27 10時ミサで任命式。

- 2) 典礼奉仕者の集い 10/5(日)
加藤主任司祭による“信徒のための典礼のお話”に変更する予定。(場所：主聖堂)
10時ミサ終了後、11:15 から約1時間。
- 3) 中高生キャンプ
8/3(日)～4日(月)教会内で実施。
8/18(月)～21(木)静岡・ラルシュかなの家でボランティア活動。各7名が参加予定。
- 4) 社会活動部学習会 7/27(日)
福岡事件について、古川龍樹氏(熊本県玉名市生命山シュバイツァー寺代表)に死刑制度の是非と冤罪の危険についてお話しいただく。
- 5) 平和を祈る集い 8/9(土)
ガザ・シリアの双方を取材したジャーナリスト西谷文和氏による講演会。
- 6) 「テゼの祈り」の集い 8/30(土)18時ミサ後
渡辺神父と音楽チームによる平和の祈り。
- 7) 教会キャンプ 8/11(月)～13(水) カトリック淳心の家(兵庫県姫路市仁豊野教会)
子ども18人(さらに5人増の可能性)、リーダー26人(うち六甲学院生6人)が参加予定。

5. その他各部・各会からの提案

- 1) 婦人会
教会遠足について：10/18(土)、岡山教会訪問と岡山市内見学に決定。9月初旬に参加者募集開始。参加費は、教会信徒11,000円、その他12,000円の予定。
- 2) SNS チーム
・作成中の議事録が完成した後に、小教区評議会と情報共有の予定。
- 3) 周年事業プロジェクトチーム
・24年11月教会報で各部に原稿作成を依頼したが、まだどこからも届いていない。専門部会で各部責任者に執筆者の選定をお願いしたい。必ずしも部会責任者自身が書く必要はない。内容は、震災後のトピックで、分量は後日担当者(大上)からお知らせする。
・図書室保管の教会報ファイルに1990～97年の分が欠落している。事務所、過去の広報担当者を確認したい。ご存知の方、別途に保存されている方は宗行チーム長まで連絡して欲しい。
- 4) 地区会・施設管理部
・教会清掃と庭の手入れを、大阪シナピスからその関連会社に変更する。作業者が在留資格を取得して法人で雇用できるため。
・今後は業務委託契約になるが、需要が明確でない場合は年間契約ではなく、業務ごとの契約にすることも考える。
- 5) 施設管理部
・各種工事の実施状況について。教会内ネットワーク更新工事は5/12、聖堂屋根塗装・軒樋補防改修工事は6/2、信徒会館および司祭館屋上防水シート応急補修工事は梅雨入り直前の6/6-7に、いずれも完成した。

第3回小教区評議会 9月14日(日) 11:15より(開始時刻変更)於信徒会館第1・2会議室

教会の名称を今後、「カトリック六甲教会」で統一します。
カトリック中央協議会、イエズス会の規定にしたがっての変更です。今後順次、変更を進めます。

2025年度 第3回 地区役員会議事録(要約)

日時：7月20日(日)11:30~13:30

場所：信徒会館 第1・2会議室

出席者：加藤主任司祭、堤小教区評議会議長、荏原小教区評議会副議長
地区会役員

1. 主任司祭挨拶

今日出席の皆さまは、本日のルカによる福音（10章38-42節）にあるマルタとマリアの物語の、マルタが出席されているよう。よく働いていただいて感謝している。

2. 報告事項

1) 堅信のお祝い会 6/15(日)

お祝い会への出席の呼びかけの成果で、昨年よりも参加者が多くなった。教会全体でお祝いすることができてよかった。詳細は教会報7月号参照。

2) 新受洗者、転入者説明会 6/22(日)

受洗者4名、転入者4名を含め約30名が参加。教会ツアーから開始し、六甲共同体の説明後、各地区の役員と受洗者・転入者が昼食を共にした。詳細は教会報7月号参照。

3) チャリティバザーについて 11/9(日)

昨年と同様に個人出店とワークショップ形式で開催する。

7月13日(日)開催の小教区評議会にてバザー企画委員が選任された。井川直哉(地区会)、藤井敦子(婦人会)、小田琢也(壮年会)、荏原いずみ(小教区評議会)

出店内容は、9月より募集開始(教会報、チラシ、週報等)。9月末締切予定。

4) 献堂30周年記念ミサ 11/30(日)

11月30日(日)10時ミサにて実施。11時30分よりイグナチオホールにてお茶会を開く。

イグナチオホールにて献堂に関する展示も予定。灘北1・北・三田(12月のイグナチオ喫茶担当)がお茶会を担当する。

3. 検討事項

1) 地区交流会各グループ「アンケート報告」の話し合いとまとめ。

地区交流会参加者：合計 134名

①地区会の持続性

各行事の参加者は高齢者が多く、若い人が少なく、参加する人はほぼ同じである。

次世代の担い手が見つかりにくい。地区役員は他の役員も兼任して務めている場合が多い。

病気になったり、体調不良にならないと交替できない。2年の任期を明確にして運用して欲しい。

地区内で役員候補者が探せない場合は、神父さまの協力をお願いしたい。

役員の手が少なくなり、地区会を持続するのは難しくなっている。

②どういう交流を望んでいるか

地区交流会のような自由に話ができる機会を望む。(教会に来られない方の安否情報、名前と顔を知っておきたいなど)若者や家族と一緒に参加できる工夫も必要。

イグナチオ喫茶のような小さなグループで自由に交流できる場があるとよい。

全体としては、できる範囲での自由な交流を望んでいることがわかった。

③教会のために私たちに何ができるのか

教会清掃に関する意見が大半占めた。（地区の掃除当番について工夫が必要と思われる）

- ・日曜日のミサ後に声掛けして掃除参加者を募る。
- ・外部発注を増やす（掃除献金の項目を設ける）。
- ・掃除参加者を募り掃除当番制にする（掃除グループを再編する）等。

④加藤主任司祭まとめ

いろいろな行事や集まりがあり問題を抱えているのが見えてきた。交流の場は問題もあるだろうが、喜びと楽しみがあることを大切にしたい。

4. その他

1) イグナチオ喫茶（毎月第1日曜日）

- ・8/3 東灘南 ・9/7 灘西・中央 *10/12 東灘北1（開催日変更） 11/2 東灘北2・芦屋
- *10/5（第1日曜日）は加藤主任司祭の講演会があるので、イグナチオ喫茶の開催を10/12（第2日曜日）に変更する。
- 当日はパウロ書店が出店する。

2) 教会名称について

- ・カトリック中央協議会での規定にしたがい「カトリック六甲教会」が正式の名称になるので、今後、「カトリック六甲教会」に統一する。
- ・音楽チームの過去の配信分は、時間を要するが「カトリック六甲教会」に修正していく。
- ・教会門柱の銘板は「六甲カトリック教会」になっているので、カトリック六甲教会に修正した方が良いと思われる。

3) 教会清掃の日曜班と教会行事について

- ・教会行事（講演会、音楽会等）と日曜班の教会掃除日が重なる場合は、教会行事を優先し日曜班の掃除は中止にする。
- ・教会行事が決定した時点で日曜班に掃除中止の連絡をすることにする。7月27日（日）の日曜班の掃除は、社会活動部主催の講演会開催のため、中止にする。

第4回地区役員会 9月21日（日） 11:30より 於信徒会館第1・2会議室

《お願い》

車で教会に来られる方は、近隣の通行の妨げになる場合がありますので、左折入庫、左折出庫にご協力ください。

教会学校便り 七夕の短冊に願いを込めて



7月の教会学校では、七夕の短冊作りを行いました。（写真左）

リーダーが「七夕について知っていますか？」と聞くと、「こういう日じゃないかな？」と、それぞれ口にしていました。教会学校の七夕では、自分のために祈るのではなく誰かのために祈ろうという気持ちで、それぞれ短冊に願いを込めました。みんなで願いを込めて書いた後は、フルーツポンチをみんなで分け合いました。このフルーツポンチはリーダーと高学年の子ども達が作ってくれました。素敵な時間をみんなで過ごすことができました。

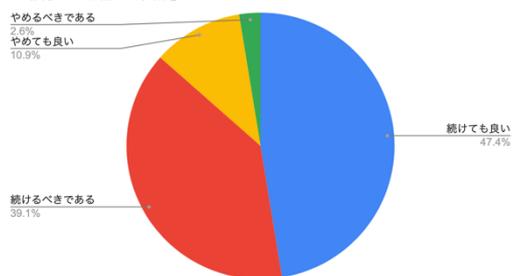
（写真は当日、イエズス会日本管区長の佐久間神父と一緒に六甲教会を訪問された住田神父が子供たちと共に短冊をつけているところ。右端は渡辺神父）

「地区会の今後を考える」アンケート集計結果まとめ（2025年6月）156名回答 （作成：地区会再編プロジェクトチーム）

1. 「信徒の動静の確認」について

特に大きな不満はなく、現状維持を望む声が多いです。一方で、「全体の人数を把握できる仕組みがあるとよい」「名簿のような形で見える化してほしい」という意見もあり、実用面での改善余地が指摘されています。

「信徒の動静の確認」について

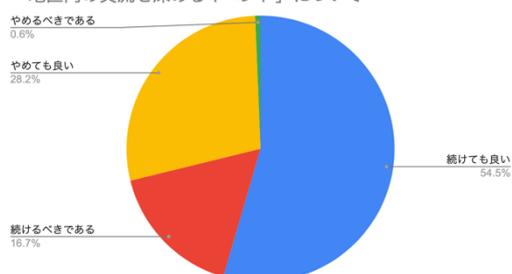


2. 地区内の交流を深めるイベントについて

交流の必要性は認識されつつも、範囲の広さや人との距離感に課題を感じている方が多いです。

「誰が同じ地区にいるのか分からない」「若い世代とのつながりをどう作るか」といった声もあり、参加しやすく温かみのある雰囲気づくりが求められているようです。

「地区内の交流を深めるイベント」について

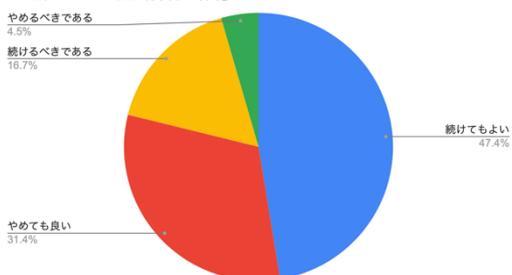


3. 教会掃除当番について

参加の難しさが多く指摘されており、制度そのものの見直しを求める声が目立ちます。

「平日は働いていて参加できない」「高齢化で負担が大きい」というリアルな声があり、曜日の工夫や業者への委託などの代案も提案されています。

「地区ごとの教会掃除当番」について

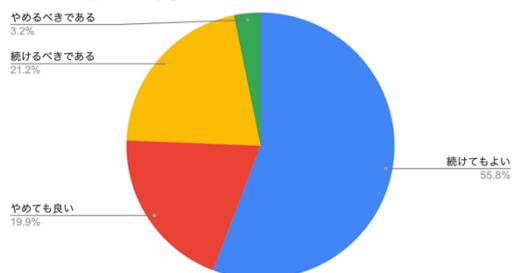


4. 教会大掃除について

伝統として大切にされつつも、担い手の不足を見越して早めの対策を求める意見が多いです。

「継続したいが難しくなるかもしれない」「外注も考えるべき」といった声があり、長期的な視野での見直しが必要とされています。

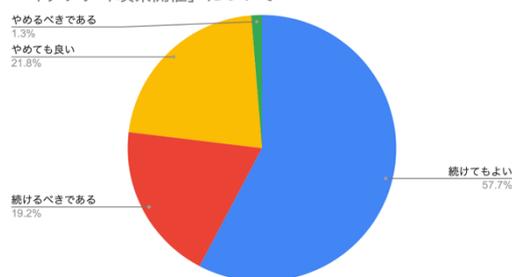
「教会大掃除の主催」について



5. イグナチオ喫茶について

交流の場として非常に好意的に受け止められており、「続けてほしい」という意見が大多数です。一方で「準備や運営の負担を減らす工夫」や「若い人が入りやすい空気作り」への配慮を求める声もあり、持続可能な形への工夫が期待されています。

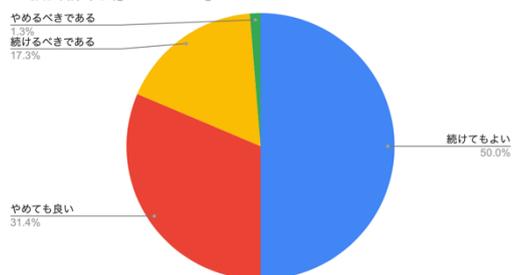
「イグナチオ喫茶開催」について



6. 教会新年会についての意見

喜びを分かち合う行事としての意義は理解されつつも、必ずしも「全体イベント」でなくてもよいという声もあります。たとえば「地区会レベルで小規模に行えばよい」など、柔軟な在り方を模索する動きが見られました。

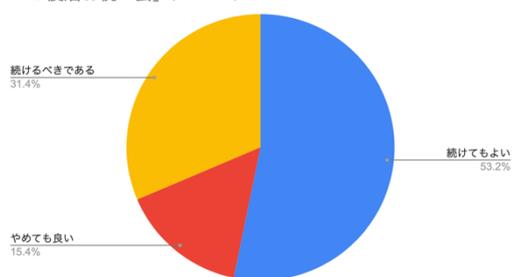
「教会新年会」について



7. ご復活お祝い会についての意見

信仰的な意味合いから重視する人が多く、「大切な行事だから続けてほしい」という声が主流です。ただし、他の行事との役割分担や実施方法を見直したいという声もあります。

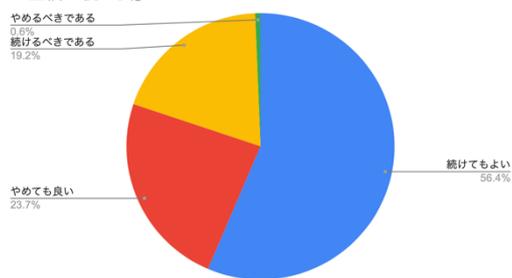
「ご復活お祝い会」について



8. 堅信お祝い会についての意見

新たに信仰に入る人々を祝う場として、非常にポジティブな反応が多いです。「続けたい」「仲間を迎え入れる象徴的な場」という意見が目立ち、教会の温かさを象徴する行事と捉えられています。

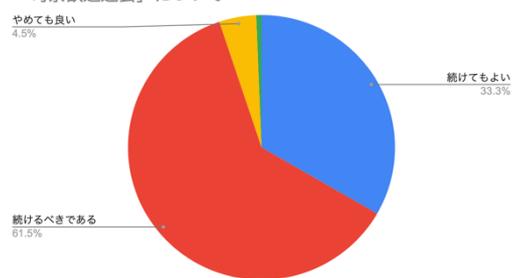
「堅信お祝い会」について



9. 司祭歓送迎会についての意見

神父様への感謝を表す貴重な場として、基本的に肯定的な意見が多数です。「新しい神父様が馴染みやすくなる」「みんなで見送る文化があってよい」といった声があり、丁寧な関わりを大事にする姿勢が伺えます。

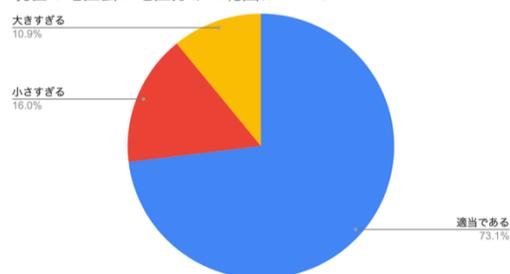
「司祭歓送迎会」について



10. 地区会の分け方についての意見

広すぎる地区は交流が薄くなるとの声が多く、見直しや合併・再編成を希望する意見がありました。
 「担い手が不足している」「距離感がある」といった実情を受けて、より実態に即した編成が望まれています。

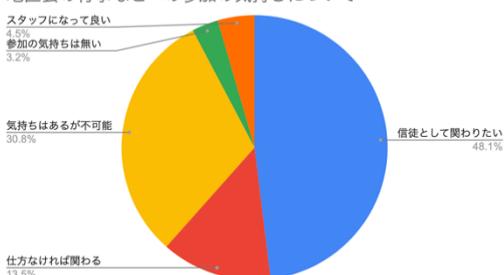
現在の地区会の地区分けの範囲について



11. 地区行事への参加についての意見

参加したい気持ちはありつつも、時間や生活スタイルとの両立が難しいという悩みが共有されています。
 「週末に仕事がある」「気持ちはあるが動けない」など、ライフスタイルに合わせた工夫や配慮が必要とされています。

地区会の行事などへの参加の気持ちについて



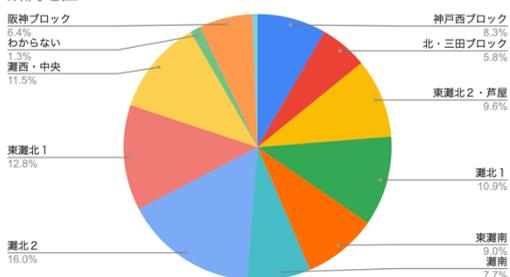
選択肢は以下の5つ

- 役員は避けたいが、信徒として関わりたい
- なるべく避けたいがどうしても仕方なければ関わらざるを得ない
- 全く参加の気持ちは無い
- 参加したい気持ちはあるが現状では不可能である
- 役員、スタッフになっても良い

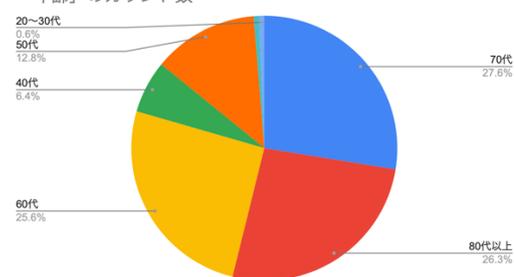
12. 地区会の今後についての意見

「持続可能な形にしていきたい」という前向きかつ現実的な声が多いです。
 人数や体制を把握したうえで、無理のない方法を模索していくべきという意見が目立ち、未来に向けた再設計の必要性が示唆されています。

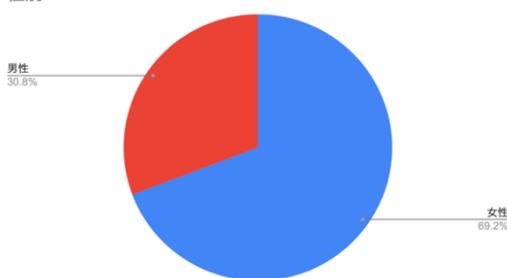
所属地区



「年齢」のカウント数



性別



* 回収したアンケートの原紙はシュレッダーにて廃棄処理しました。

●●●みんなの広場●●● 入院生活をエンジョイ

思いもよらず入院生活が長引いてしまいました。正確に言えば、退院して3日後に再入院となったのです。最速出戻り。なので現在入院中なのです。延べ1ヶ月以上になります。

病院での1日はゆっくりです。一応のスケジュールは決まっていますが、検査、処置、オペ等のイベントは医師や通院患者との調整もあるので予定時刻通りにはいきません。薬の増減やシャワーなどの希望の回答にも時間がかかり、逆に「今から〇〇します」と突然呼ばれたり。

最初、このシステムになかなか慣れず、「待つ」のが仕事だな、と思い直しました。

こちらも負けてられません。PCやスマホで時間を有効活用です。もちろんしんどい時にはそれどころではないし、身体が思うように動かせない時は大いにスタッフの皆さんの助けを借りる要領も身につけてきました。

そんな中、ボランティアでヘアカットをしてくださるというお話を聞き、早速お願いをしました。こられたのは徳永知美（トクナガサトミ）さん（=写真）というとても素敵な方でした。普段は美容室にお勤めでお休みのうち月一回程度、それこそ手弁当で病院を回っているとのことでした。

「髪は女のいのち」いつまでも若く美しくありたい、と願うのは病気をしている年齢を重ねても女の共通の望みです。

オキシトシン・アドレナリンの分泌が高まり、元気になります！本当に嬉しい。何故このボランティアをする気に？との問いに、社会のお役に立ちたい、という気持ちがあった中、病院で募集があったから、との返事。

いくつかの病院入院経験がありますが、ここ日本赤十字のスタッフ

の方は担当医師をはじめとして格別ハートフルだと感じます。奉仕の精神、愛に満ち満ちています。

なので感謝の毎日です。支えてくださるご恩に報いるためにも、これからも闘病生活を楽しみながらむかっけていきたいと思っています。



徳永知美さん(左)と病院職員さん(車イス)

(マルガリタ・マリア 岩田 聖代)

お知らせ 「典礼奉仕者の集い」は中止、「信徒のための典礼のお話」へ変更

10月5日(日) 13時から「典礼奉仕者の集い」が予定されていましたが、これを中止し、今年は全信徒を対象として、加藤主任司祭に「信徒のための典礼のお話」をしていただくことになりました。

開始時刻も11時15分からに変更となります。場所は主聖堂です。

みなさまのご来聴をお待ちしております。(典礼部)

《カトリック社会活動神戸センターから寄付のお願い》

野宿者、生活困窮者の下着が不足して困っています。みなさまからのご寄付を募ります。

◇下着は新品に限ります。色は、汚れが目立ちにくい黒、紺、グレーでお願いします。

Ｌサイズの半袖シャツ(丸首、V字)、トランクス をご寄付下さい。

◇期間：8月9日(土)～8月24日(日) 回収の都合により、ごミサ前後の時間帯にお出しください。聖堂入口に段ボール箱を用意しています。ご協力の程、よろしくお願い致します。

私の好きな聖書のことば



「神は愛なり」 (ヨハネの手紙 [一] : 4 章 16 節)

この言葉を理解できたのは家内が亡くなってからです。死は悲しいけれど、愛があるゆえになお悲しい、そこに神を感じる事が出来ました。その後、教会へ出戻ってきました。愛は見えないけど愛の存在は感じる事出来る。その神の愛は私たち人間に対する無償の愛であると感じます。そして、もうひとつ、座右の銘としているのが、「心を尽くして主に信頼せよ。自分の悟りに頼ってはならない。」(箴言 : 3 章 5 節)です。これは自分だけの理解に頼らず、信仰や信頼を持つことを勧めています。

ロバート・フリン神父から受洗したのがほぼ 70 年前、中学生の時でした。

受洗のための公教要理の理解はほぼ出来なかったと思います。ただフリン神父の人柄、笑顔に好感と信頼が持て、入信しました。周りからは“あんたらキリスト教と言うよりフリン教やねえ”と言われていました。当時はほぼ毎日放課後に教会へ寄って聖体訪問をしていました。そして、「目に見えない神」のことをいつも考えていました。神父は「遠くに煙突が見え、煙が上っている時、火は見えないけど火の存在を判断できる。神の場合も同じです。」と言われ、“はい”と返事をしたが、正直、上手く丸め込まれた感じでした。

(ヨハネ 福田 信三)

◀ 図書室からのお知らせ ▶

・ 2025 年 7 月までに図書室に入った本

☆ 日本の最も美しい教会 八木谷涼子・文 鈴木元彦・写真 エクスナレッジ

一度は訪れたい世界に誇れる日本の聖堂。潜伏キリシタン発見の地となった長崎の教会から、日本の大工技術が光る木造教会 近代建築の巨匠たちが残した建築遺産まで 61 の美しすぎる祈りの空間を厳選。カトリックの外、ルーテル教会、ハリスト正教、聖公会、日本キリスト教団、大学チャペルも。

☆ 「正義と平和」の50年 日本カトリック正義と平和協議会 カトリック中央協議会

憲法 9 条、脱原発、死刑廃止、沖縄、日韓連帯、環境、教育、反核・・・に取り組む。

☆ 戦後沖縄 阿波根昌鴻 写真集成 戦後 80 年平和を発信する沖縄写真巡回展実行委員会編

琉球新報社

沖縄のガンジーといわれるアワゴン・ショウコウさんを偲ぶ写真展の記録。阿波根さんは、反戦平和に向けて伊江島を中心に米軍基地建設反対を訴えて戦い続けました。

※皆様方の図書室をさらに使いやすくするために、どうしたらよいか、お気付きの点をお知らせ下さい。

図書室入口の投書箱または教会事務室まで。

社会活動部 今月の予定

8 月は、手芸の集い、炊き出し、ともしび会、すべてお休みです。

図書室配架替えについて

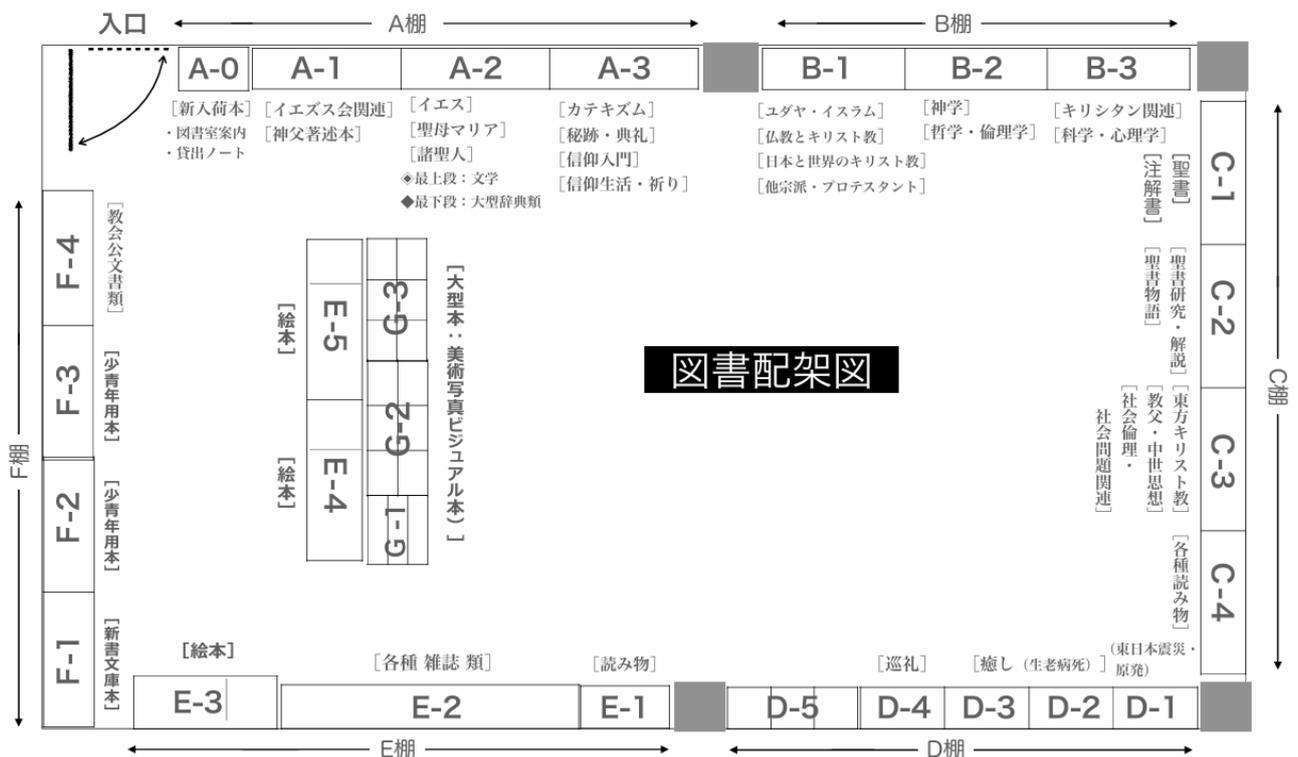
信徒会館2階への階段を上ってすぐ左手の部屋が「六甲教会図書室」です。昨年来少しずつ図書の配架替え作業を行って一区切りがつかしましたので、今後の図書の利用や貸出についてお知らせ致します。

入口入って左より、A棚からG棚までテーマごとに分けられ配架されています。自由に閲覧し、また「貸出しノート」に記載することで、一定期間借りることもできます。

今回の配架替えの目的は2つあります。(1) 以前は入口近くに聖書と注解書また神学関連の書籍が配置されていましたが、今回は入信して間がない人の関心を引きそうなテーマのもの、日々の信仰生活に役立つような本を入口近くに、聖書関連の書籍や研究書などは「奥」（図書室深部）に配置して図書を通しての信仰の奥行きを楽しんでもらおうとの意図もあります。(2) 以前の分類番号配架をやめたため、借りた本を返却するとき元あった棚がどこかわからなくなることが多々ありました。そこで今回は棚の壁位置ごとにAからGまでの記号をつけ、『貸出しノート』にも棚記号を付記してもらい返却時に役立ててもらうことにしました。(戻す場所が分からない場合、A-0の棚下に置いておくのは以前と同じです)

なお今回の「図書室配架図」とともに「図書室利用案内(マニュアル)」のプリントを秋口頃つくる予定にしております。ご意見ご希望などお聞かせください。

— 図書の分類名(カテゴリの大筋) * 図参照	
A-0 [新入荷本]・図書室案内・貸出しノート A-1 [イエズス会関連] [神父著述本] A-2 [イエス] [聖母マリア] [諸聖人] ◆最上段：文学 ◆最下段：大型辞典類 A-3 [カテキズム] [秘跡・典礼] [信仰入門] [信仰生活・祈り] B-1 [ユダヤ・イスラム] [仏教とキリスト教] [日本と世界のキリスト教] [他宗派・プロテスタント] B-2 [神学] [哲学・倫理学] B-3 [キリシタン関連] / [科学・心理学] C-1 【聖書】 【注解書】 C-2 [聖書研究・解説] [聖書物語]	C-3 [東方キリスト教] [教父・中世思想] [社会倫理・社会問題関連] C-4 [各種読み物] D-1 [東日本震災・原発] D-2～3 [癒し(生老病死)] D-4 [巡礼] D-5 未定 E-1 [読み物] E-2 [各種雑誌類] E-3～5 [児童絵本] F-1 [新書文庫本] F-2～3 [少青年用本] F-4 [教会公文書類] G-1～3 [大型本・美術写真ビジュアル本]



《平和月間イベント：講演会「冤罪★叫び★命」》

7月27日（日）11時20分より、イグナチオホールで古川龍樹師による講演会『「冤罪★叫び★命」～いま、「福岡事件」から考える死刑～』が社会活動部主催で行われ、多数が来場した。これは、大阪高松大司教区平和月間「希望と平和の巡礼者となろう」の企画の一つとして行われたものである。併せて古川師による数十枚のパネルも展示された。講師は、熊本県玉名市の生命山シュバイツァー寺代表であり、父の故古川泰龍師の遺志を受け継ぎ、福岡事件の故西武雄死刑囚の冤罪を晴らすために再審を請求し続けるとともに、死刑制度の改革、死刑の廃止を求めている。

古川泰龍師は真言宗の僧侶として、福岡刑務所の死刑囚専属の教誨師を務めていたが、1961年春、1947年の福岡事件の主犯とされる西武雄死刑囚らに冤罪の疑いがあるのではと気づき、調査を始め、1963年には2000ページにも及ぶ『真相究明書～九千万人のなかの孤独～』の出版にこぎつけた。次第に全国区の運動となり、1964年8月最初の再審請求を行ったが却下された。1968年春、神近市子衆議院議員が中心となって「死刑囚再審特例法案」を超党派で提案し、占領下に起訴された死刑確定囚に限り再審要件を緩和することを求めた。この案が多くの賛同を集めたので、1969年西郷吉之助法務大臣は、その勢いをそぐために、対案として恩赦を積極的に運用することを提案し、何人かが恩赦された。恩赦が西死刑囚にも与えられるかと思われたが、1975年6月には銃を発射したほうの共犯・石井健治郎死刑囚の恩赦が決定して無期懲役に減刑されたものの、西死刑囚には恩赦が適応されず、その日のうちに、しかも20分の事前通告で死刑が執行された。非常に恣意的な死刑執行のやり方だと言わざるを得ない。

古川龍樹師は姉とともに父の遺志を受け継ぎ、西死刑囚の再審を求めるとともに、再審要件の緩和を訴え、死刑の廃止、死刑制度の改善を、日本のみならず世界に訴えている。

小柳 義夫

ミニコンサート

～聖母の被昇天によせて～

8月15日（金）

10時00分ミサ終了後、11時00分頃開始

主聖堂に於いて、ミサに続いて行われる20分間程度の小さなコンサートです。
どなたでもご参加いただけます。

歌、ギター 橋岡 尚美（カトリック六甲教会独唱奉仕者）・ドブロギター 橋岡 重尚

Program

1. アシジの聖フランシスコの平和の祈り (Sebastian Temple)
2. マリアの賛歌 (山本きくよ)
3. 主の恵みの水 (鈴木博文)
4. A Living Prayer (Ron Block)
5. My Church (Maren Morirs)

主催 カトリック六甲教会音楽チーム

【2025年8月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					初金ミサ 7:00 10:00	
3	4	5	6	7	8	9
年間第18主日 手話付きミサ 10:00			主の変容 日本カトリック 平和旬間 (~15日)		◎灘北1・北・三田	平和を祈る集い 14:00
10	11	12	13	14	15	16
年間第19主日	山の日 教会学校 キャンプ (~13日) 教会事務室休み (~14日)				聖母マリアの 被昇天 ミサ 7:00 10:00 10時ミサ後 ミニコンサート	◎灘北2・阪神
17	18	19	20	21	22	23
年間第20主日					◎大阪シナピス	
24/31	25	26	27	28	29	30
年間第21主日 /年間第22主日					◎灘南・神戸西	平和を祈るテゼの 集い (平和月間行事) 19:00 (18:00 ミサ後) ◎土曜班

◎印は掃除当番地区 (午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止)

◇編集部からお知らせ:p7~9 のグラフが小さくて読みにくいと思われる方には別途ご用意しますので、お申し出ください。

【編集後記】

- ◇サン・ピエトロ大聖堂のピエタ像。十字架から降ろされたイエスをしっかりと膝に抱えるマリア。ミケランジェロの匠の技は深い感動を呼び起こします。
- ◇イエスも苦しかったけれどマリアはもっと苦しかったでしょう。「母に『婦人よ、ご覧なさい。あなたの子です』それから弟子に言われた。『見なさい、あなたの母です』(ヨハネ 19・26-27)ここでマリアは教会の母となるのです。8月15日は聖母マリア被昇天の祝日。(余)

(ver1.1)

<p>次回9月号の印刷・発行は8月30日(土)の10時半からです。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp)</p> <p>皆さまからのご寄稿をお待ちしています。</p> <p>・教会 SNS チームは、フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)で配信しています。</p> <p>「カトリック六甲教会」で検索してみてください。</p> <p>毎月の教会報はホームページではカラーでご覧になれます。</p>	<p>カトリック六甲教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電話 078-851-2846</p> <p>FAX 078-851-9023</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 加藤 信也 編集 広報部</p> 
---	--